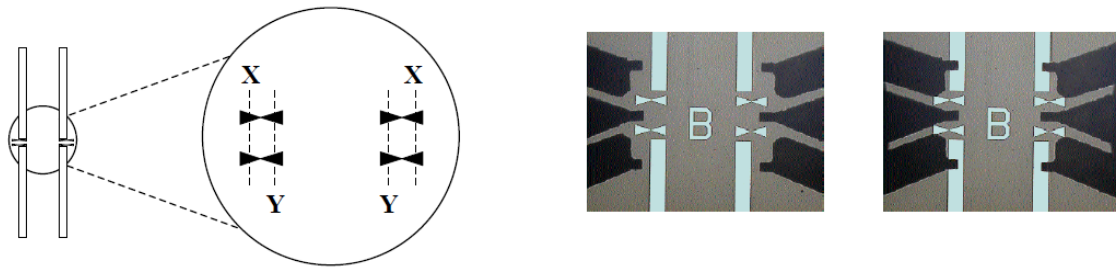
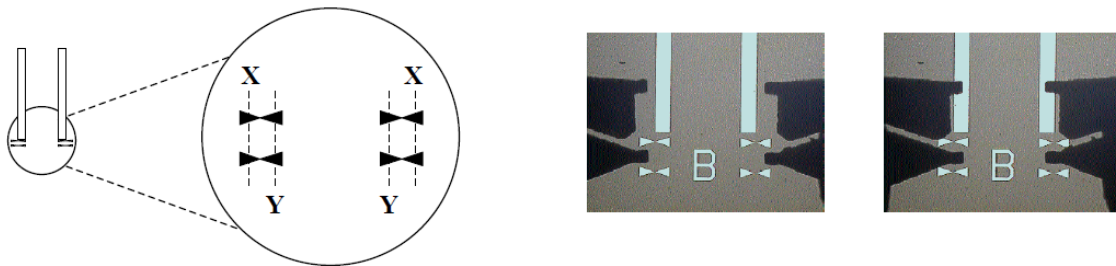


カスケード・マイクロテック社のインピーダンス基準基板 (ISS) には、プローブの間隔とすべり量を最適にするためのアライメント・マークが付いています。その使い方については ISS マップに記載されていますが、さらに詳しい内容を解説します。

ISS マップには以下のような図と写真が掲載され、アライメント・マークの使い方が解説されています。



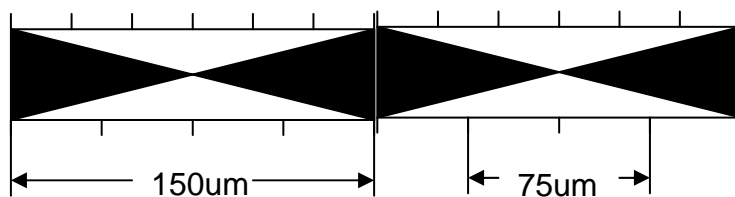
106-682 (ワイドピッチ GSG) のアライメント・マークと使い方



106-683 (ワイドピッチ GS/SG) のアライメント・マークと使い方

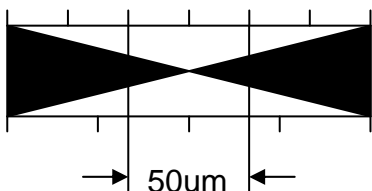
アライメント・マークは全体で 150um ありますので、上記の調整方法だと 75um ずべる (スケートする) ことになります。

75um のスケートで使用するようになっています。

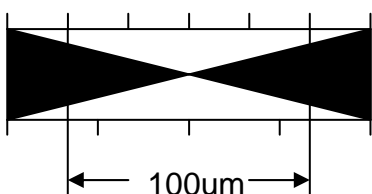


この 75um のスケートについて、もう少し詳しく解説します。

ワイドピッチ (250um を超えるもの) のプローブの場合、最低どの程度のスケートが必要かと言うと、50um となります。



もう一つ考慮しなければならないのは、安全なスケートの最大値です。ACP の場合、最大安全オーバードライブは 250um ですので、最大安全スケートは 100um となります。(オーバードライブ : スケート = 2.5 : 1)



実は 75um のスケートは、これら 2 つの中間の値となっています。

75um のスケートで使用するようになっています。

またチャックが上下するセミオートのプロブステーションを使用している場合は、セパレートの距離にも注意する必要があります。

75um スケートした場合、オーバードライブは 187.5um ($75 \times 2.5 = 187.5$) となります。

デフォルトのセパレート距離は 200um なので、このままの設定ではセパレートしてもプローブがウェーハに接触している可能性がありますので、十分なセパレート距離を設定する必要があります。セミオートのプロブステーションを使用する際には、十分に注意してください。

